

2013 年度 日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会主催

歴史教育シンポジウム

ナショナリズムと歴史教育—東アジアを中心として

日時：2013 年 10 月 19 日（土）13：30～17：30

場所：駒澤大学駒沢キャンパス 1号館 1—304 教場

開会挨拶：木村茂光（日本学術会議史学委員会）

報告

上田美和（早稲田大学）

「逆説的な愛国心—戦時期自由主義者の場合」

日本の国民にとって、愛国心の発揚を最も強く求められたのが戦時期（1931～1945 年）である。しかし、その愛国心のありようは、果たして単一的であったのだろうか。戦時期に「時局向き」ではないと揶揄された自由主義者は、単一の愛国心への同調に「否」を唱えた人々である。本報告では、自由主義者と愛国心の問題を論じ、今日のナショナリズムをめぐる議論に一石を投じたいと思う。

吉澤誠一郎（東京大学）

「五四運動からみる中国ナショナリズム」

1919 年の五四運動は、中国ナショナリズムの歴史のなかでも目立った事柄と言える。しかし、そのとらえ方については、今日の中国の学界でも様々な議論があり、生き生きとした問題関心が示されている。それは、ナショナリズムの歴史的意味をどのようにとらえるのかという基本的な論点につながっている。本報告では、暴力をふくむ反日運動である五四運動についての理解を、少しでも深めてみることをめざしたい。

君島和彦（元・学芸大学）

「韓国の歴史教育と“東アジア史”教科書」

韓国では、高等学校の選択科目に 2012 年度から「東アジア史」という科目が新設され、実施された。この科目の新設経過を「教育課程（日本の学習指導要領）」の変遷を検討することによって明らかにしたい。その上で、「東アジア史」教科書での日本関係記述を中心に検討してみたい。そこでのナショナリズムの問題に言及できればと思っている。

総合討論

発言 米山宏史（法政大学高校）「東アジアとナショナリズム～高校世界史授業からの提言～」

閉会挨拶：廣瀬良弘（日本歴史学協会）

連絡先：日本歴史学協会 info@nichireki-kyo.sakura.ne.jp

<http://www.nichirekikyo.sakura.ne.jp/>